

ブラザー工業の沿革と 事業内容の変遷

株式会社ダイセキ環境ソリューション
山本浩也

1. ブラザー工業の会社概要

- 商号 ブラザー工業株式会社
 (BROTHER INDUSTRIES, LTD.)
- 本社所在地 名古屋市瑞穂区苗代町15番1号
- 設立 1934年1月15日
- 資本金 19,209百万円(2018.3.31現在)
- 売上収益 連結 712,997百万円(2017年度)
- 従業員数 連結 38,628名/単独 3,937名
 (2018.3.31現在)

2. ブラザー工業の沿革～大きな流れ～

- ～40年代 輸入産業を輸出産業へ
- 50年代 コア技術を応用した多角化の推進
- 60年代 海外市場への進出
- 70年代 高速ドットプリンターの開発と電子化の推進
- 80年代 情報機器分野への進出と
産業機器事業の拡大
- 90年代 SOHO市場開拓と通信カラオケ事業進出
- 00年代 グローバル展開と事業一貫経営
- 10年代 新規事業の拡大と事業ポートフォリオ強化

3. 創業～40年代 輸入産業を輸出産業へ

【社会状況】

- ・明治維新後役人の制服が洋装に
⇒ミシン需要増大
- ・日本は欧米ミシンメーカーの寡占状態
- ・1945年第二次世界大戦終結

【経営意思】

- ・輸入産業を輸出産業へ
- ・自前主義
- ・兼吉氏遺言「一業を守ってあくまでも品質第一主義を貫き、技術屋ながら販売にも意を用い、兄弟協力して世に出よ」

- 1908 安井兼吉氏「安井ミシン商会」設立
- 1928 昭三式ミシンを「BROTHER」商標で販売
- 1932 家庭用本縫ミシンの国産化に成功
- 1934 「日本ミシン製造株式会社」を創立
- 1947 家庭用直線ミシンHA1を上海向け200台輸出



4. 50年代 コア技術を応用した多角化の推進

【社会状況】

- ・戦後復興、朝鮮戦争特需
- ・1954対米ミシン輸出禁止
⇒出荷組合による出荷調整
- ・全米家庭に電化製品普及

【経営意思】

- ・1950正義社長50日間の米国視察⇒事業の多角化を決意
- ・正義社長「一業に専念するには忍耐がいる。一つの道に専念すると意外に新しい展望が開けるものだ。」

- 1954 職業用編み機・攪拌式電気洗濯機の生産開始
- 1955 扇風機を生産開始
- 1957 冷蔵庫・80CCオートバイの生産開始
- 1961 欧文ポータブルタイプライター (JP1-111) 米国サンプル出荷



5. 60年代 海外市場への進出

【社会状況】

- ・日本高度経済成長
⇒1968日本のGNPが世界2位に
- ・米国市場でポータブルタイプライター需要の高まり

【経営意思】

- ・設立の精神「輸入産業を輸出産業にする」
- ・市場としての可能性を見極めた上で現地法人を設立

- 1954 輸出機関としてブラザーインターナショナル(株)設立、米国NYに販売会社設立
- 1958 アイルランド・ダブリンに販売会社設立
- 1959 カナダ、1962 フランス、1964 ドイツ、1968 オランダ、1977 オーストラリアに販売会社を設立



6. 70年代 高速ドットプリンターの開発と電子化の推進

【社会状況】

- ・米国貿易赤字拡大とドル弱体化
⇒日米貿易摩擦
- ・1973第一次オイルショック
- ・コンピューター普及による情報化
⇒アナログからデジタル技術へ

【経営意思】

- ・膨大な初期投資のかかるドット印字展開を決断
⇒グラフィック機能に発展性
- ・メカ技術から電子技術への転換
⇒情報機器には不可欠

- 1971 米国セントロニクス社と共同で高速ドットプリンタ開発・出荷開始
- 1974 NCマシン1号機完成
- 1979 業界初のコンピュータマシン生産開始
- 1980 電子オフィスタイプライター「EM-1」生産開始



高速ドットプリンターM-101

7. 80年代 情報機器分野への進出と産業機器事業の拡大

【社会状況】

- ・消費者ニーズ多様化による製品ライフサイクル短期化
⇒工作機械へのニーズも多様化
- ・情報通信機器の市場拡大
- ・1985プラザ合意⇒海外輸出低迷

【経営意思】

- ・自前主義「製品を作る機械も自分で作る」⇒メカトロニクス戦略
- ・1989「21世紀委員会」
⇒①社会・社員にとり良い会社
②プリンティング技術③アパレルシステムインテグレーター

- 1982 電子パーソナルプリンタEP-20生産開始(サーマル印字)
- 1985 CNCタッピングセンターTC-211国内販売開始
- 1987 情報通信機器進出「FAX-100」発売開始
- 1988 ラベルライター「ピータッチ」国内OEM発売開始、カラーコピー機発売開始



ラベルライター「ピータッチ」

8. 90年代 SOHO市場開拓と通信カラオケ事業進出

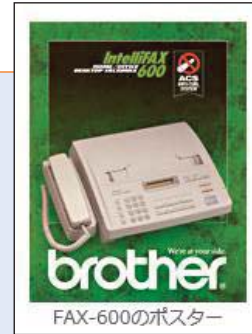
【社会状況】

- ・日本経済 バブル景気崩壊
- ・1995「Windows95」発売
⇒パソコンが一般社会へ普及
- ・米国でSOHO拡大
⇒OSSチャンネル急成長
- ・カラオケ市場拡大

【経営意思】

- ・「選択と集中」で抜本的な構造改革を推進⇒情報・通信を軸とする事業領域へシフト
- ・製造と販売を有機的に結ぶ「事業一貫経営」の構築
⇒マーケットイン発想での商品開発

- 1990年代 家電・楽器事業からの全面撤退
- 1992 米国で「FAX-600 (\$ 399)」発売開始
ISDNカラオケネットワークシステム「JOYSOUND」
発売開始
- 1995 小型デジタル複合機「MFC4500ML」米国発売
- 1997 インクジェットデジタル複合機「MFC7000FC」米国発売



9. 00年代 グローバル展開と事業一貫経営

【社会状況】

- ・円高ドル安の定着
- ・東南アジアの経済成長
- ・2008リーマンショック

【経営意思】

- ・BVCM(ブラザー・バリュー・チェーン・マネジメント)構築
⇒お客様の声を企画・開発・設計・製造・販売・サービスの原点に
- ・1999「ブラザー・グローバル憲章」
⇒グローバル最適調達・最適生産

- 1998 基幹システムにSAP R/3導入
- 1999 ブラザー販売の完全子会社化
- 2002 中国深圳に製造会社「兄弟工業有限公司」設立
- 2007 ベトナムで情報通信機器の生産開始
- 2013 フィリピンで情報通信機器の生産開始



10. 10年代 新規事業の拡大と事業ポートフォリオ強化

【社会状況】

- ・リーマンショックを克服
- ・IoT加速
⇒スマートフォン等モバイル端末が急速に普及
- ・中国などアジア各国の成長加速

【経営意思】

- ・優れた事業や技術はM&Aで「時間を買う」
- ・アジアは「生産地」の位置づけに加えて「巨大消費市場」に

- 2008 HOYAからモバイルプリンター事業譲受
- 2010 エクシングがUSENのカラオケ子会社「BMB」合併
- 2013 「ニッセイ」(減速機・歯車事業)を子会社化
- 2015 エクシングがJVCケンウッド「テイクエンタテインメント」子会社化
- 2015 英国産業用プリンティング企業「ドミノプリンティングサイエンス」を子会社化(1,890億円)



11. まとめ

- 1908年に「安井マシン商会」として創業したブラザー工業は、マシン修理業に始まり、マシン製造販売・編み機・各種家電製品・タイプライター・プリンター・ワープロ・FAX・複合機・産業機械・通信カラオケ等様々な分野へと変化・展開して成長してきた。
- 販売市場としては米国に始まり欧州各国・アジア各国へ、製造拠点としてはアジア各国を中心に世界中に拡大した。
- 製品や事業エリアは激しく変化する一方で、根底に流れる経営意思は「輸入産業を輸出産業へ」「自前主義」「事業一貫経営」など一貫しており、これを社会変化に合わせて実践してきた結果が、ブラザー工業の沿革と事業内容の変遷であると言える。

12. 参考文献

- 「ブラザーの『一世紀』 ともに歩んだ100年の軌跡」
ブラザー工業株式会社100年事業推進部編
2009年3月 ブラザー工業株式会社発行
- 「ブラザーの再生と進化 価値創造へのあくなき挑戦」
安井義博著、2003年12月 生産性出版発行
- 「『解』は己の中にあり 『ブラザー小池利和』の経営哲学60」
高井尚之著、2012年3月 講談社発行
- ブラザー工業株式会社 ホームページ

